

くすりの正しい服用、使用上の注意が一目でわかる 絵文字(ピクトグラム)28種類を考案

「くすりの適正使用協議会」(会長：^{ともたけ たけし}渡守武 健 所在地：東京都中央区 以下：当協議会)は、このたび、くすりの種類、使用方法などについて子供から高齢者まで誰でも親しみをもって簡単に理解できる絵文字(ピクトグラム)28種類を考案しました(別紙)。

この絵文字は、ユニバーサルデザインフォーラム(任意団体)のご協力をいただいて、当協議会が考案したものです。人の顔、ナイフやフォーク、太陽や月といった、幼い子供でも直感的に理解できる要素を組み合わせています。また、絵文字を囲む形と色にはそれぞれ意味があり、禁止事項は赤い円に赤い斜線を入れ、注意事項は黄色のひし形とし、それ以外を黒い四角としました。小学生の段階からくすりについての教育を取り入れ、子供たちが正しいくすりの知識を身につけること、さらに製品説明書やくすり袋などに記載して、大人も含め使用者が適正な使用方法を一目で理解できることを目指しています。

なお、これら28種の絵文字は、インターネットを利用した理解度調査の結果、80%以上が理解できたものを採用しています。

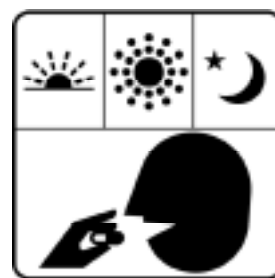
絵文字の例



子供の手の届く
ところに保管しては
いけません



眠くなること
があります
(副作用)



朝・昼・夜、
一日三回のむ

＜親子で読める小冊子を配布＞

当協議会では今後、くすりの関係団体に絵文字を紹介し、普及をはかっていきます。

はじめに、本年3月1日(月)に当協議会のホームページに絵文字を掲載し、広く利用していただけるよう、無料でダウンロードサービスを開始します。また、絵文字を紹介した小冊子、ポスター、絵文字シールの作成、配布も考えています。そして今年の8月には“からだ博”(主催：健康と医療フォーラム実行委員会、日本経済新聞社、NHK 場所：東京ビッグサイト)に出展し、くすりの適正使用の啓発活動に努めていきます。

くすりと教育

くすりの適正使用に関して、日本では小中学校で適切な教育がなされていないのが現状です。当会が平成 13 年に行った調査によれば、小学生に対するくすりの教育は、全く普及しておらず、教育が行われている場合にも個人レベルに近いものでしかないことが明らかになりました。

くすりの使用方法についても、例えば水の代わりに牛乳で飲んではいけないなどの服用に関する知識もあまりないのが現状です。当会の調査によれば、「1 日 2 回食間に服用」とあるのに、朝・夕の食事中に服用してしまった事例があります。

絵文字考案の背景

1991 年 9 月、協議会委託研究会は、『「医療関係者に必要な医薬品情報」と「患者に必要な医薬品情報に関する研究」』を中間報告としてまとめましたが、その提言の一つに「医薬品の扱い方を示すビジュアル文字の開発」があります。

2000 年 11 月、厚生省医薬安全局がまとめた「医薬品に関連する医療事故防止対策（案）に寄せられた意見について」には、「絵文字による記載の必要性」があります。現在進めている協議会の「児童及び青少年のくすり教育プログラムガイド」では、絵文字をくすり教育の一手段として紹介します。

くすりの適正使用協議会は、1989 年に創立され、医療用医薬品の評価研究からくすりの適正使用の推進を目的とし、医療用医薬品製薬企業 31 社と個人 2 名で組織する任意団体です。当協議会は医薬品のベネフィットとリスクを科学的に客観的に検証し、社会に適正な医薬品情報を提供し続けることが患者さんの真の利益につながるという認識のもとに、自主的に RAD-AR^{レ-ダ-ア-ラ}活動を推進しています。RAD-AR（Risk/Benefit Assessment of Drugs-Analysis and Response の略称）活動とは、医薬品が本質的に持っているリスク（好ましくない作用など）とベネフィット（効能・効果や経済的便益など）を科学的に検証して分析を行い、その成果をもとにして社会に正しい情報を提供し、医薬品の適正使用を推進すると共に、患者さんの利益に貢献する一連の活動を意味します。

お問い合わせ先

くすりの適正使用協議会

やの みつひこ もりやま しげる まつだ いたろう
矢野 充彦 森山 茂 松田 偉太郎

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町 4-2 第 23 中央ビル 5 階
TEL 03-3663-8891 FAX03-3663-8895 E-mail info@rad-ar.or.jp